

崖地の植物

崖地の植物



ツワブキ
キク科

高さ30～75cmの常緑多年草。太い地下茎から長柄のある根生葉を多く出す。葉は切れ込みのある円形で厚く光沢がある。花期は10～12月で花茎上に黄色い花をつける。若い葉柄は食用となる。太平洋側では福島県が北限で、県内では北茨城、日立などでみられる。



ハマギク
キク科

高さ50～100cmの多年草または小低木。茎は太く基部からそう生し、葉は肉質で表面に光沢がある。9～11月に6cmほどの白い花をつける。北茨城、高萩では比較的ふつうにみられるが、ひたちなか市が分布の南限となっている。



コハマギク
キク科

高さ10～50cmの多年草。茎はそう生し葉はやや肉質で浅く切れ込む。長い地下茎が伸びて繁殖する。9～10月、茎先に白い花をつける。ひたちなか市が分布の南限となっている。

ハマナデシコ
ナデシコ科

高さ15～50cmの多年草。茎は株状となり、下部は木質化して斜上し上部は直立する。葉は厚く光沢がある。花期は6～11月で茎頂に紅紫色の花を多数つける。鹿嶋周辺に分布するが比較的まれである。



崖地の植物

崖地の植物



スカシユリ
ユリ科

高さ20～60cmの多年草。茎は直立しやや角張る。葉は厚く光沢があり多数つく。6～8月、茎頂に橙赤色の花を上向きにつける。花弁の間に隙間があるのでこの名が付いた。砂浜にも生育し、県内のほぼ全域に分布する。



オニヤブソテツ
オシダ科

長さ60～100cmになる常緑多年性のシダ植物。葉は濃緑色で光沢があり厚い革質。根茎は塊状となる。常磐沿岸に多くみられる。



ラセイタソウ
イラクサ科

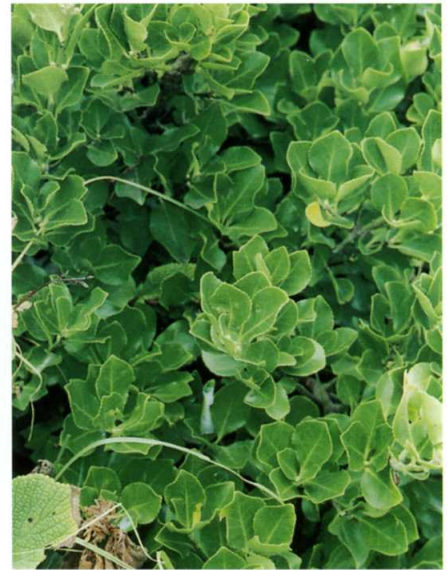
高さ30～70cmの多年草。葉は厚く表面には著しいしわがあり両面に毛がはえる。地下茎は木質で硬い。花期は7～9月で雄花穂は下部に穂状につき、雌花穂は球形となり上部に集まってつく。主に常磐沿岸に分布する。

砂浜・崖地背後の植物



クロマツ
マツ科

樹高40mにもなる常緑高木。樹皮は灰黒色で厚く、亀甲状にはがれる。葉は長さ10~15cmの針状で横断面は半円形になる。花期は4~5月で新しい枝の下に雄花、上端に雌花がつく。県内全域に分布し砂防林として広く植栽されている。



マサキ
ニシキギ科

高さ3mほどの常緑低木。葉は革質で光沢があり長さ4~7cm。6~7月に葉のつけねから短い柄を出し、淡緑色の小花をつける。果実は秋に赤橙色に熟す。主に常磐沿岸に分布する。



タブノキ
クスノキ科

高さ20mの常緑高木。樹皮は灰白色となる。葉は革質で光沢があり裏面は白緑色で、枝先に集まってつく。花期は4~5月。新葉とともに枝先に黄緑色の小花を多数つける。主に常磐沿岸に分布する。



トベラ
トベラ科

高さ2~3mの常緑低木。葉は枝の上部に密生し、へら形で厚く光沢がある。葉の縁は裏側に巻き込む。花期は4~6月で今年枝の先に白色の花をつける。果実は冬に赤く熟す。県内のほぼ全域に分布する。



アキグミ
グミ科

高さ3mほどの落葉低木。よく枝分かれして小枝や葉柄は灰白色を帯びる。葉は楕円形で裏面は銀白色の鱗片に厚く覆われる。4~5月、葉のつけねに白色の花を数個つける。果実は秋に赤く熟す。主に常磐沿岸に分布し砂浜海岸ではクロマツとともに植栽されることもある。

砂浜・崖地背後の植物



ハイネズ
ヒノキ科

常緑低木。幹は分枝して地をはい四方に広がる。葉は先がとがり触れると痛い。4~5月、前年の枝に花をつける。果実は直径1cmほどで熟すと紫黒色に粉白をおびる。伊師など砂浜海岸のクロマツ林縁で見られる。



テリハノイバラ
バラ科

ほふく性の落葉低木。枝にはとげがある。葉は7~9枚の小葉からなり、厚く光沢がある。5~7月に3cmほどの白色の花をつけ果実は秋に赤く熟す。河原や山野にも生えるが、海岸部では鹿嶋などでみることがきる。



コマツヨイグサ
アカバナ科

高さ20~60cmの越年草。茎は斜上するか地面に伏し、葉は浅く切れ込む。幼苗はロゼット葉で越冬する。花期は7~8月で葉のわきに淡黄色の花をつける。花はしぼむと赤黄色になる。北米原産の帰化植物で乾いた砂地に生える。波崎、鹿嶋などで多くみられる。



セイトカアワダチソウ
キク科

高さ2~3mにもなる多年草。茎は直立し、葉は披針形で多数つく。10~11月、茎頂に黄色の小花を多数つける。地下茎から他の植物の生長を阻害する物質を分泌しながら繁殖する。北米原産の帰化植物で空地、荒地、土手などに群生する。



ヤブツバキ
ツバキ科

高さ15mの常緑高木。葉は革質で光沢があり表面は濃緑色。花期は2~4月。花は赤色で半開して下を向く。果実は球形で種子からは精油がとれる。常緑樹林の代表的な種。海岸部では北茨城や伊師などでみられる。

砂浜・崖地背後の植物

貴重な植物



イブキ

ヒノキ科

高さ15~20mの常緑高木。主幹はねじれることが多い。樹皮は赤褐色で縦に裂け、葉は鱗片状と針形状の2型をつける。花期は4月、雌雄異株まれに同株。果実は翌年秋に熟し、紫黒色となる。伊師浜^{いしはま}に自生しているものは「いぶき山イブキ樹叢」として国の天然記念物に指定されている。



ハマナシ

バラ科 別名：ハマナス

高さ1~1.5mの落葉低木。枝は太くとげを密生する。葉は7~9小葉からなり厚くしわがある。6~7月、枝先に紅色で強い香りのある大きな花をつける。果実は秋に赤く熟す。鹿嶋市大小志崎には国の天然記念物に指定されている自生南限帯がある。

ウチワサボテン

サボテン科

莖は楕円形で平べったくウチワのような形をしている。莖がからみあって密生し鋭いとげがある。6~8月に黄色い花をつける。メキシコ原産。波崎町に群生地があり茨城県の天然記念物に指定されている。

